

地域の魅力

「いつまでも住み続けたいと 思えるまち」 猪苗代を目指して

～協働による未来の創造～



二瓶 盛一
猪苗代町長

●猪苗代町の概要

猪苗代町は、福島県のほぼ中央に位置し、豊かな自然の象徴である磐梯山などの山々と猪苗代湖に囲まれた地域です。

地勢は、東西に17.6km、南北に27.4kmで、394.85km²の面積を有し、標高は500～2,000mの間にあり、北高南低型です。

人口は、令和6年3月1日現在で12,584人^{*}（福島県現住人口調査）です。

気候は日本海式気候で、夏季は湿度が低く、冬季は積雪が1～2mほどになります。

山と湖が織りなす雄大で美しい自然に囲まれた当町では、古くから農林業が盛んに営まれ、生活の礎が築かれてきました。

近年においては、スキー場をはじめとするレジャー施設が整備され、「農業と観光のまち」として発展してまいりました。

また、当町は、世界的に有名な「野口英世博士」の生家記念館、会津藩初代藩主の保科正之公を祀る土津神社、亀ヶ城の雅称で親しまれている猪苗代城跡など、多くの名所旧跡が存する「歴史と文化のまち」としても広く知られています。

しかし、当町においても少子高齢化・人口減少



猪苗代町



土津神社の紅葉

が進んでおり、今後もこの傾向が続くと予想され、地域の産業や経済に与える影響が懸念されています。

加えて、アフターコロナにおけるインバウンドへの対応や町民の利便性を向上するDX（デジタルトランスフォーメーション）、SDGsの推進など、地域社会の課題に対応した政策が急務となっています。

● 第七次振興計画後期計画の推進

このため、当町では、平成29年3月に策定した「第七次猪苗代町振興計画」を見直し、令和4年3月に「第七次猪苗代町振興計画（後期計画）」として改定したところです。

後期計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5カ年となります。

本計画では、「ともに地域を育て、みんなが心地よく暮らせるまち 猪苗代」を基本理念として、①安全・安心を肌で感じる、②豊かな自然を活かしきる、③いつまでも猪苗代に暮らす、④人をつくる。そして、まちをつくる、⑤協働により、みらいをひらく、の5つの基本目標を定めています。

これら5つの基本目標の下に、社会情勢に対応した基本計画を定め、あらゆる年代・立場の人々が、「猪苗代に住んでみたい」、「いつまでも猪苗代に住み続けたい」という希望が持てるまちづくり、さらには猪苗代を訪れる方々が充実した時間を過ごせるような魅力あるまちづくりに現在取り

組んでいます。

● (株)ISホールディングスとの包括連携協定

このようなまちづくりの取組みの一つとして、当町では、以前からご縁のある(株)ISホールディングス（本社：東京都千代田区）との間で、地域活性化と自然資源の保全・活用に関する包括連携協定を令和3年10月に締結しました。

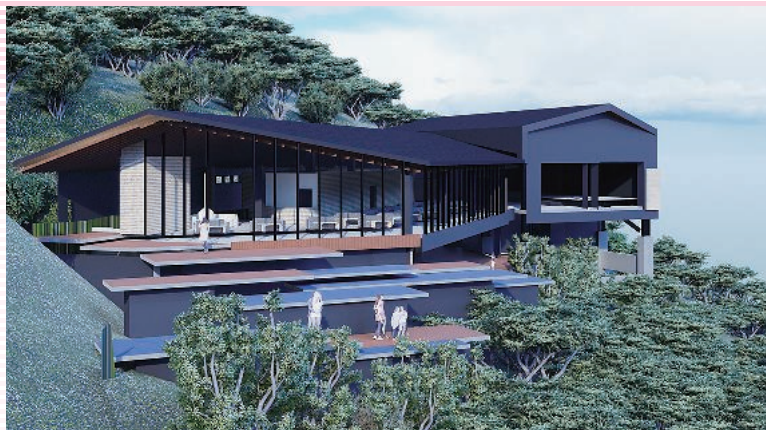
同社は、猪苗代スキー場を運営している(株)DMCaizuの親会社として、IT事業や金融事業を営んでいる企業です。

協定では、猪苗代町と同社が相互に情報共有や意見交換に努め、関係施策について緊密に連携・協力することで、地域活性化を実現することを目的としています。

この目的を達成するために、①スキー場の整備等に関する事項、②観光農園の整備等に関する事項、③自然資源を活かした再生可能エネルギーに関する事項、④猪苗代駅前の活性化に関する事項、⑤中ノ沢温泉の振興に関する事項、⑥その他両者が協議し、必要と認める事項、の6つについて、施策を進めているところです。

● 会津テラス計画の実現に向けて

この協定に基づいて、当町とDMCaizuが協力・連携して進めている「会津テラス計画」について、紹介します。



「会津スカイテラス（仮称）」の完成イメージ図

「会津テラス計画」は、猪苗代スキー場がある赤埴山^{あかはし}の山頂に、猪苗代湖を見下ろし磐梯朝日国立公園の自然を楽しむことができる眺望施設を整備する計画です。

また、山麓からこの眺望施設に通じるゴンドラリフトを新設し、磐梯山登山の新たなアクセスルートを創出する予定です。

これらのハード施設を整備することにより、スキーシーズンのみならず登山やトレッキングなど、年間を通して磐梯山の魅力を発信することができ、周辺市町村の観光振興にもつながると期待しています。

加えて、この計画では、希少な動植物を守るための「環境配慮・自然環境オフセットプログラム」や、子どもたちに向けた環境学習などの「持続的な地域社会の形成をめざした事業」等もソフト事業として実施する予定です。

この眺望施設とゴンドラリフトは、令和7年秋の開業を目指しています。

●協働により、未来をひらく

野口英世博士の肖像を採用した千円札紙幣は、今年の7月から北里柴三郎博士の新千円札となります。

野口博士の千円札は、20年間の役割を終えますが、私たちはこれからも博士の偉業を顕彰し、不屈の意思と深い人間愛の精神を後世に伝えていかなければならないと考えています。

また、当町では、令和7年度に町村合併70周年の節目を迎えますので、こうした機会を的確に捉え、私の考える町政の原点である「いつまでも住み続けたいと思えるまち」を目指して、町民や事業者の皆さまとの協働により、「魅力ある猪苗代」の未来を創造してまいります。



猪苗代湖（磐梯山頂から）